

「伝えよう、わたしたちの心」

(四年下四単元)

―「総合単元」を扱うにあたって―



盛岡市立城南小学校教諭

むらなか
村中 ゆり子

一 はじめに

「総合単元」は、子どもたちが一年間に培った国語の力を総合的に駆使する場として設定されています。ですから、今までに身につけた力を生かして、子どもたちが主体的に学習に取り組めるように計画を立てる必要があります。そして、このことは、それまでに、子どもたちの国語の力をきちんとつけることができたか、私たちの力が試される場でもあります。

四年下四単元「伝えよう、わたしたちの心」には、平成十二年度版からの継続教材である「手と心で読む」が説明文教材の一つとして取り上げられています。この教材では、子どもたちは点字に大きな興味を示し、積極的に活動に取り組んでいました。このような十二年度版で

の実践を積極的に取り入れることによって、「二つ目の説明文教材「手話との出会い」を読み深め、さらに「伝え合い」を考える会を開こう」の活動へとつないで、より豊かな総合単元の活動が可能になるのではないのでしょうか。

そこで、この単元の指導計画を立てるにあたって、指導展開の流れにそって、支援のポイントや準備しておくことなどを考えてみました。

二 指導展開の流れ

1 単元の大きな見通しについて確認する。

リード文を読んでここでの学習の見通しを立て、点字や手話についての図書資料を紹介します。さらに、並行読書できるように、教室に「点字・手話コーナー」を用意しておきます。いつでも気軽に手に取ることができるようにしておく、子どもたちは自然に興味・関心がもてるようになると思います。

点字・手話コーナー



2 「手と心で読む」の中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考えながら文章を正しく読み取る。

「落葉松」の詩の全文を子どもたちと一緒に朗読し、「お母さんは、どんな気持ちで北原白秋の詩を点字にしたのだろう。」などを話し合いながら、筆者の点字との出会いを理解することで、「文字をもつ喜び」や「人間の知恵が人の心を結ぶ道具や方法を生み出していく」という考えに着目させたいと思います。

3 「手話との出会い」を、「手と心で読む」で培った力を生かして読む。

ア「驚き」「感動」という言葉に着目し、自分で小見出しをつける活動をしながら、文章を読み取る。
イ「手と心で読む」での段落分けをヒントにして、皆で話し合いながら、文章を読み深める。

ここでは、「手と心で読む」の教材で培った読み取る力を生かして、なるべく自主的な活動を重視します。

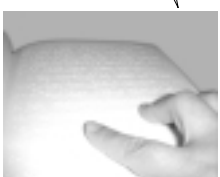
4 『伝え合い』を考える会を開く。

ア実際の点字や手話にふれてみる。
十二年度版で学習した際も、実際の点字や手話にふれる機会を設定しましたが、総合単元では特に欠かせない活動です。

市役所から発行されている点字による広報を見る。



点字には絵や写真がないんだな。指で読むのって難しそう。



読んだことのある本の点字版の本を見る。

点字図書館には、児童書なども点字訳されています。子どもたちは、すでに読んだことのある本と同じ内容の点字の本には文字も絵も写真もないことに驚きます。

実際に手話を使いながら歌ってみる。

教師が率先して、子どもたちの前で手話を使いながら歌ったりすると子どもたちは興味津々です。

・赤い花 白い花
・切手のないおくりもの
など



子どもたちは、自分で手話を使って歌ってみることに
よって、もっと手話を調べたり、覚えたりしたいという
ことになります。
イ課題を決める。

点字についての例	手話についての例
盲導犬の仕事について 聴導犬の仕事について 点字探し ブライユについて ヘレン・ケラーについて 日本の点字ができるまでの 歴史 目の不自由な人が使う道具 について 目の不自由な人の話を聞く ハンディキャップ体験	耳の不自由な人が使う道具 について 手話の練習 耳の不自由な人の話を聞く 手話を覚えるときの苦労に ついて 手話で歌う その他 音声による伝え合い 点字や手話のほかに伝える ものがあるか

教師の準備として、どういつところで調べられるか、ま
た、どういつもので調べたらよいかは、毎年の積み重ね
によって、資料などだいが集めやすくなってきましたが、
学校に来て話していただく方や、インタビューにつかがう
方とは、早めに打ち合わせをしておく必要があります。
工調べたことをまとめる。

- 新聞を作る。(見出しにインパクトを)
- 説明書を書く。(三年で説明書を作ったときの
学習を生かす)
- 文集を作る。(それぞれの作文をまとめて)
- パンフレットを作る。(文と写真などの組み
合わせ)
- ポスターをかく。(文と絵などの組み合わせ)
- ビデオやテープに録画する。(取材するときに
録画・録音しておいて編集)

これらは子どもたちが自主的にするのですが、パンフ
レットなどいくつか見本になりそうなものを集めておき
ます。教師の側もあらかじめ、ある程度のイメージを
もって臨むことが大切だと思います。
オ『伝え合い』を考える会を開く
『伝え合い』を考える会は二時間の計画なので、その
中で終われるように、子どもたちでプログラムを決め、

ウ課題について調べる。

資料を調べる。
・図書資料やインターネットなど
学校に来て話してもらつ。

人に尋ねる。
体験してみる。

ハンディキャップ体験など
(体験が実感のこもった感想
を生みます。)

総合的な学習の時間と関連さ
せて取り組むこともできます。



点字図書館での調べ学習の例

発表時間もグループの数によって逆算して割り出し、持
ち時間を決めます。まず、相手意識、目的意識をはつき
りもった発表をするにはどうしたらよいか話し合うこと
が大切です。このことを確認することで、子どもたちは
見通しをもった発表ができます。

家の人たちがインタビューした方々も招待して聞いて
いただき、感想をもらつと、聞いたことをどれだけ伝え
ることができたか自分でもよくわかります。

ぜひ、ビデオに録画しましょう。自己評価にもつな
がり、次への意欲の喚起にもなります。

三 おわりに

「伝え合い」とは、単に言葉の交流だけでなく、双方
向の心の交流であると考えます。それは、自分の思いや
考えを一方的に伝えるだけでなく、相手の思いや考えを
受け止めたうえで、自分なりの思いや考えを再構築し、
それを相手にわかりやすく伝ええるという、双方向の言語
活動によって行われます。そして、そのことによって心
の交流が生まれ、好ましい人間関係をも作っていくこと
になると考えます。

これが本来の国語の力だと思います。一人でも多くの子ど
もにこの国語の力を身につけさせていきたいと思っています。